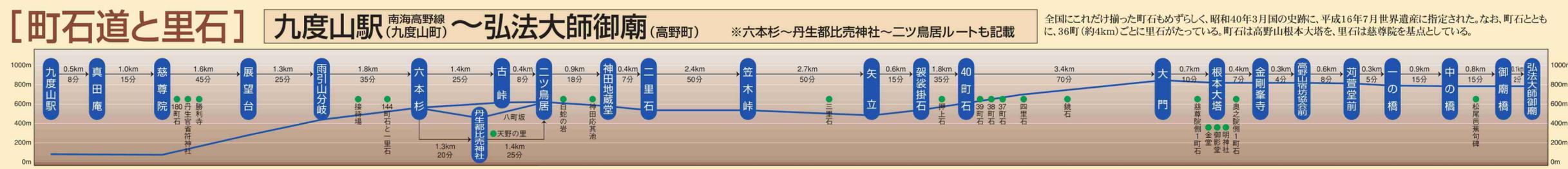




歴史の道探訪



高野参詣道
町石道をたずねて



聖地へと続く
道しるべをたよりに いざ出発!

真田庵
真田庵は「善名称院」といい、豊臣方の智将真田幸村ゆかりの寺で、境内には、父昌幸の墓や宝物館があり、4月下旬頃、はたんの花が咲き、毎年5月5日には真田まつりが行われ、真田十勇士などの武者行列が町をねり歩く。

慈尊院
高野山が年貢の徴収や外部との交渉の場として山麓においた寺務所で、高野政所ともいわれた。後に弘法大師空海が母公（阿刀氏）の没後、伽藍を建て、弥勒菩薩を安置したため、以後女人禁制の高野に対し、女人高野ともよばれるようになり女性の参拝客も多い。

180町石
慈尊院多宝塔の南、石段の中ほどにある180町石は、表参道をのぼる場合、最初の町石である。金剛界37尊、胎藏界180尊をかたどった仏種子を表わす梵字は小川僧正信範、町数、施主名、年号などは世尊寺経朝の書によるものである。

丹生官省符神社
慈尊院から119段の石段をのぼった高台にある。空海が慈尊院創建の時、その鎮守社として丹生都比売、高野御子の二神等を祀った神社。社殿は室町末期の建立で重要文化財に指定され、その他多数の文化財も収蔵されている。

勝利寺
弘法大師厄除観音を祀る寺。高野表参道の玄関口で、貴族、武士、庶民の宿泊者や参詣者にぎわたと伝えられる。隣接地には弘法大師空海が伝えたといわれる高野紙の伝承活動施設「紙遊苑」があり、紙すき体験ができる。

展望台
朝日スポット
朝日・夕日100選にも選ばれている展望スポットです。紀の川流域が一望でき東から橋本市、かつらぎ町と南には高野山があり、見晴らしはすばらしい。

163町石付近
眼下に紀の川平野を見下ろし、和泉山脈を一望できる町石道の代表的な景勝地である。雨引山分岐まで登り坂が続く。

144町石と一里石
むかつて左は144町石。右は慈尊院から、1里（約4km）の距離を示す里石。

接待場
弘法大師空海の石像がある接待場は、かつて教良寺（きょうらじ）村の人々が、毎年御影供（旧暦の3月21日）に高野詣の人々に握り飯や湯茶の接待をしたことに由来する。弘法大師像を拝むと遠く高野山奥之院の御廟を望むと言われている。

天野の里 ~歴史と伝説の宝庫~
西行堂
天野の里には、平家物語、源平盛衰記、弘法大師空海にまつわる史跡が多く残る。西行堂は、西行と妻娘をしのんで建てられ、古くから高野山の僧や一般のお参りが多かったとされる。堂の下に妻娘の墓がある。

丹生都比売神社
弘法大師空海が高野山の地を授けた神社。祭神は天照大神の妹君である丹生都比売大神で高野山の守護神。丹生都比売大神の子、高野御子（狩場明神）大神が狩人に化身して空海の前に現れ、白と黒の二匹の犬とともに高野山へ導いたという伝説は有名。紀伊國一の宮。

八町坂
丹生都比売神社と町石道を結ぶ参詣道。町石道との合流地点には遙拝のための二ツ鳥居が建てられている。

二ツ鳥居
弘法大師空海が建立されたといわれているこの鳥居は、二つとも高さ約6mの花崗岩製、一脚の重さ約4.5トン。現在は鳥居に額はないが、記録によると丹生大神を祀る丹生都比売神社の鳥居とされている。

二ツ鳥居の近くにある休憩所。天野の里が一望できる展望台も近くにあり、疲れた体を癒すには絶好のポイントです。

113町石と神田応其池
この地区は神田と呼ばれ、古来丹生都比売神社のご供米を作る場所と定められたため、この地名となる。桃山時代、豊臣秀吉公のころ応其上人は、その米作に最も重要な養水の保存にと、この大池を開鑿され、なお、水の神、雨引の神といわれる善女竜王を池の半島に祀り込めたと伝えられている。

神田地蔵堂
地蔵堂は横笛が出家後、滝口入道に一目あいたい女心から、時々このお堂へ来運び入道を持ったと伝えられている。また、ここには、弘法大師、子安地蔵、応其上人が祀られている。

二里石 **三里石** **四里石**
二里石、三里石、四里石は、高野山への参詣道に設置された石標。二里石は高さ約1.5m、三里石は約2m、四里石は約2.5mの高さがある。石の表面には「二里」と刻まれている。

弘法大師空海の伝承を伝える三石
袈裟掛石
鞍のような形をしているので鞍掛石ともいう。弘法大師空海が御袈裟を掛けられたともいわれ、この石からは高野山の清浄結界となる。この石の下をくぐれば長生するとも言われている。なお、この石は、袈裟掛石、鞍掛石、くぐり石の3つの名称がある。

押上石
弘法大師空海の母公が結果を乗り越え入山されようとした時、激しい雷雨が火の雨となり親孝行の大師は、この大磐石を押し上げ母公を隠まったといわれている。両手の跡が残っている。

鏡石
27町石近くの険しい所にある。面が鏡のように平らな石で、この石の角に座って真言を唱えるとき、必ず心地を得られる（成就する）といわれている。

国道480号沿いにある町石
37町石 **38町石** **39町石**
37町石、38町石、39町石は、国道480号沿いに設置された町石。石の表面には町数を刻まれている。

いにしへの 時空を経て開かれた 山上の大宇宙 人々を魅了する 謎を解き明かそう!
大門
大門は高野山一山の総門で、高さ25.8m、法橋運長作の金剛力士像を左右に安置した重層の楼門。現在のものは、宝永2年（1705）に再建され、昭和56年から解体修理が行われ、昭和61年10月落慶。深みどりの杉・檜の木立に、朱色の楼門が威風堂々とそびえ立つ姿は、山中唯一の社殿。また門前からの展望が素晴らしい。晴天の日は遠く加太の海、淡路島が眺望できる。

夕日スポット
密教の都へタイムスリップしたような夕陽がみれる。

根本大塔
真言密教の根本道場として創設され、高野山全体の中心をなすのが壇上伽藍。奥之院とともに高野山の一大浄域であり、その中心である根本大塔は高さ48.5mの威容を誇る。

金堂 **御影堂** **御社**

慈尊院側1町石
慈尊院側1町石は安永2年5月（1773）女院太后寄進、中門より西の境内杉林の中にある。

奥之院側1町石
伽藍内愛染堂前の左側にある。大正2年、秋の再建。

金剛峯寺
高野山真言宗の総本山で、山上のほぼ中央にある。弘法大師空海が高野山を開創した当時は、全城を金剛峯寺と呼んだ。現在は高野山第二世座主真然大徳（伝灯国師）の廟所で、文禄2年（1593）豊臣秀吉が亡母を供養するために建立された普賢寺・興山寺を明治2年に合併し、全国の末寺を代表する総本山となった。

苺萱堂
苺萱道心と石童丸の伝説ゆかりのお堂。「石童丸物語」は高野聖によって全国津々浦々に語られ、堂内にはこの物語を絵にした額がいくつも掛けられている。

奥之院
奥之院は、一の橋から弘法大師の御廟までの約2kmの浄域で、僧侶は必ずここで身心をととのえ礼拝する。この一の橋から奥之院までの参道の両側には何百年も経た老杉がそびえ、森厳さをたたえている。その老杉のもとには、数十万基を越えるあらゆる時代の墓碑が静かに眠っている。

一の橋 **松尾芭蕉句碑**
父母のしきりに戀し 稚子の声

御廟
御廟は大師信仰の中心聖地。転輪、楊柳、摩尼の三山に囲まれた台地にあり、その山すそを清流玉川が流れてる。大師御入定前、この地を入定留身の地として自ら定められ、御入定後弟子たちは、この地の定額に、生身と全く変わらない定身を取り、その上に三間四面の廟宇を建て、日々のお給仕をたぎさなかったと記録されている。そびえる老杉の間から至心に祈る人々に今もなにか語りかけている。

歴史の道 高野参詣道町石道

平安時代、空海が真言密教の根本道場として開創して以来、高野山は現世浄土として広く信仰を集めている。古くからの聖地へ向かう道は幾本もあったが、それらは山に近づくにつれて合流、七つの道に集約されて山内に入っていく。その七つのうち九度山の慈尊院から山上西口の大門へ通じる表参道を町石道といい、開山の空海が木製の卒塔婆を建てて道しるべとした道である。

鎌倉時代になって、朽ちた木の代わりに石造り五輪塔形の町石が一町（約109m）ごとに建てられた。町石は高さ3m、30cm角の花崗岩。山上の根本大塔を基点にし、慈尊院の石段途中を最後に180町石を建て、胎藏界180尊にあて、さらに大塔から奥の院までの36町石を設け、金剛界37尊とした。現在も梵字が刻まれた町石が残っている。はるばる参拝にこられた人々は、空海自身が登ったこの道にたどり着いたとき、どんな心持だっただろう。37尊、180尊を表す町石自体が信仰の対象で、1町ごとに合掌しながら登山したという。天皇、上皇から庶民まで参拝登山したこの道は、まさしく祈りの道、信仰の道であった。

さて、山上は天下の霊場117の寺院や堂塔大伽藍があり、天然記念物でもある奥の院参道の杉並木の下には、諸大名をはじめとする数十万基もの供養碑や歌碑、句碑がひっそりと立ちならび、心鎮まる別世界である。奥の院は大師信仰の聖域で、空海の廟所までの約2kmにわたる杉並木の参道が続き、重要文化財指定の経堂や、貧女の燈がとる燈籠堂などがある。

金剛峯寺は全国に3600寺もある高野山真言宗の総本山で豊臣秀吉が母の菩提を弔うために建てた松皮葺きの荘厳な建物。壇上伽藍は、本尊胎藏界大日如来と金剛界四仏を安置する巨大な根本大塔を中心として、御影堂、金堂などが立ち並ぶ。宇治平等院を模した優美な霊宝館は、山内諸寺に伝わる25,000点もの文化財を保管、展示している。国宝や重要文化財も多い。大門は高野山の総門で5間重層の表参道の楼門。高野山町石道は、なお、ここから山内に入り、奥の院参道をへて御廟にいたる。この道は、平成16年7月に世界遺産に登録された。

町石番号	町石高	エリア	町石数	町石番号	エリア	町石数
奥の院側	1-36	高野	36	慈尊院側	109-115	かつらぎ
慈尊院側	1-90	高野	90		116-120	九度山
	91-95	九度山	5		121-144	かつらぎ
	96	高野	1		145-146	九度山
	97-106	かつらぎ	10		147-163	かつらぎ
	107-108	九度山	2		164-180	九度山

上古沢駅

町石道を歩くにあたって、九度山駅から高野山まで一気に歩く、健脚向きコースか、この駅を分岐点として分割して歩くといった楽しみ方もあります。

この場合は…

- ◎第1日目のルートとして
九度山駅～古峠～上古沢駅
(途中、丹生都比売神社を拝します)
- ◎第2日目のルートとして
上古沢駅～古峠
～大門～弘法大師御廟

高野七口(高野参詣道)

弘法大師空海入定以来、高野浄土信仰の広まりとともに、人々の参拝が盛んになり、参拝者がたどった高野山への道で、主な七つの道が高野七口とよばれていた。なお、高野山は女性禁制であったため女性は山内に入らず、各入口には女性のための籠り堂として女人堂がつくられ、女人信者は御廟を拝みたい人々蓮華の峰々をめぐる女人道をたどったといわれています。現在は不動坂口のみ女人堂が残っているが、他の入口には女人堂跡が残っている。

- 1 大門口 西口、大門また矢立口といわれ、和歌山口、麻生津口を含む。
- 2 不動坂口 京口また学文路方面道を集約したもの。
- 3 黒河口 大和口または粉砕峠口ともいわれていた道。
- 4 龍神口 湯川口、保田口、梁瀬口ともいわれていた道。
- 5 相の浦口 南谷方面を指し、水上峠、大松峠などの道。
- 6 大滝口 熊野口ともいい、南のろくろ峠を含む。
- 7 大峰口 東口、野川口を含む。



慈尊院 A-3

丹生官省符神社 A-3

勝利寺 A-2

物産販売所 C-1 「ようよって」

丹生都比売神社

古くからの神社に参拝したのちに高野山へ上ることが置かれていた。この神社を分岐点として分割して歩くこともできます。

この場合は…

- ◎第1日目のルートとして
九度山駅～六本杉～丹生都比売神社
(途中、丹生都比売神社を拝します)
- ◎第2日目のルートとして
丹生都比売神社～二ツ島居(または六本杉)～大門
(丹生都比売神社からコミュニティバスで約30分)

金剛三昧院 E-4

高野山周辺各所

高野龍神スカイライン

大門 E-4

壇上伽藍 E-4

根本大塔・御影堂・准胝堂

奥の院参道 E-5～D-5

女人堂 E-4

徳川家霊台 E-4

金剛峯寺 E-4

六角経蔵

三結の松

金堂

徳川家霊台 E-4

根本大塔・御影堂・准胝堂

六角経蔵

三結の松

金堂

大塔の鐘(高野四郎)

山王院

高野参詣道町石道 (世界遺産) と五輪塔

仏教では、「宇宙を形成する物質は、空・風・火・水・地の五つの要素からなる。」と説かれている。この五つの構成要素を宝珠、半月、笠、円、方形にかたどったものが五輪塔である。それぞれの部分に空・風・火・水・地を意味する梵字(サンスクリット文字)が刻まれている。

奥の院参道には、多くの五輪塔形の墓碑が見受けられる。

～高野参詣道町石道をみんなで守りましょう～

世界遺産は人類にとって共通のかけがえのない宝物であり、私たちが未来の人々に引き継いでいかなければならない貴重な文化財やすばらしい自然です。町石道を傷付けず大切に歩きましょう。異常を見かけたら裏面のお問い合わせまでお知らせください。